

豊太郎の母は自殺したのか？

先ず初めにこのテーマを選んだ理由について書くと、舞姫の主人公である豊太郎を女手一つで育てた母がp277で亡くなったという報告があっただけで死亡の原因が何か触れられてないので、少し気になったからである。これを踏まえて、豊太郎の母はどういう人柄かまとめつつ、私の予想である自殺、寿命、病死の三点から本文を根拠に結論付けていく。

豊太郎の母は五十をこえていて、夫を早くに亡くしていたが、豊太郎という一人息子に厳格な家庭教育を受けさせ、東大の予備門に通わせて大学に入れた。p264の114にあるように息子がいつも主席であることが心の慰めであった。また一人息子を頼りにしていた。そんなことから母は豊太郎に期待していたと考えられる。また、夫という一番の稼ぎ頭がないので、息子を大学卒業まで育てるというのはとてもお金がかかることなので、自分の身を削ってまで働いたのだと考えられる。それほど豊太郎にすべてを注ぎ込んでいた。

しかし豊太郎はドイツに渡り、まことの我を認識し、そしてエリスと出会い、長官に職を解かれた。このことは母に大きなショックを与えたと考えられる。豊太郎の母には原因は何かまで詳しく伝わってないとしても、今まで必死に育ててきた息子の職が解かれたというのは、息子に裏切られたような衝撃だったと推測する。p276、p277で母を慕う豊太郎に、生涯で一番悲痛を覚えさせるほどなので、母の手紙からも考えられる。

以上のことから、母の死因は自殺の可能性が高い。なぜなら、豊太郎の職が解かれた時期に急に亡くなるとは考えにくいし、母にとって大きなショックの後なので、自殺と考えるのが自然である。しかしこの時代の女性の平均寿命は四十四歳であることから、寿命も考えられる。だがこれは本文には根拠となるものがなく、病死とも考えられる。また病死についても、同じく本文には根拠となる記述がないので、そうだとは言い切れない。

ここでもう一度母の行動や人柄を考えると、息子の豊太郎を頼りにし、立派に育て上げるまで自分の身を削って働いていたことから、やはり本文から読み取れることを重点に置くと、自殺であると言える。

したがって結論付けると、母は自殺した。

最後に

このレポートでは、自分の予想が多くて根拠が弱かった。また母の死因も、自分が読んでなんとなく自殺か寿命か病死かなと思ってまとめただけで、他の死因を考えることができてなかった。